

令和7年度 獨協医科大学大学院看護学研究科博士後期課程入学試験(第1期)

【小論文】 出題意図・解答例

問題 1

【出題意図】

アドミッションポリシーで示した「看護学の専門領域に係る基礎的な知識並びに研究遂行能力」「地域、施設、病院教育の場における看護学上の課題に問題意識を有し、解決に向けた看護学研究に取り組む」能力として、社会や医療問題への関心・理解の程度及び文章読解力、要約力、論理性)を査定するために、2040年問題への医療上の課題をテーマとした新聞記事を取り上げた。

問 1

【解答例】

高齢化が進む 2043 年に向けて医療は「治す医療」から「治し、支える医療」への転換が急務となっている。厚生労働省は急性期医療から回復期医療への転換や在宅医療の需要の増加に対応するための医療体制の大幅な改革と予測される医療人材の不足への対応も求められている。しかし改革への動きは鈍く、改革が進んでいない。現在の医療体制の改革は待ったなしの状況であることを認識し、強い危機感を持った改革が必要である。

問 2

【解答例】

2040 年問題の看護への影響とそれへの対応について自分の考えの記述がある。

例 病院機能の変化や在宅医療への転換に伴う看護の役割変化について記述がある。

あるいは

医療人材の不足に対する看護の役割変化やタスクシフトなどの対応などを含めた役割変化の記述がある。

問題2

【出題意図】

博士後期課程において、看護学の博士論文を作成するにあたり、研究の意義を看護実践に見出すことが基盤であるため、本題を出題した。

【解答例】

看護研究の意義は、対象者により良い看護を提供するため、看護上の課題を明らかにし、その解決策を見出すことにある。これは、単なる個人の経験則ではなく、科学的根拠に基づいた知識体系を発展させ、看護実践の質を向上させることを目的としている。

- 看護実践の質の向上：日々の看護現場で直面する疑問や課題を科学的な視点で捉え、データに基づいたより効果的なケア方法を開発・改善することで、患者の QOL（生活の質）向上に貢献する。
- 科学的知識体系の発展：個々の看護師の実践知（経験によって得られた知識）を研究によって「可視化」し、客観的な知識として共有・体系化することで、看護学全体の発展につながる。
- 倫理的配慮に基づいたケアの実現：研究計画の段階から倫理的な配慮を十分に検討し、研究対象者の権利を守るための手続きを踏むことで、適切な看護ケアの提供につながる。
- 専門職としての成長：研究プロセスに関わることで、看護師自身の批判的・創造的思考力、問題解決能力、自己省察能力が養われ、専門職としての能力向上につながる。
- 多職種連携の強化：研究結果をチーム内で共有することで、他の医療専門職種との共通認識が生まれ、より組織的かつ継続的な医療・看護の取り組みが可能となる。

以上の意義について、

具体的な実践経験を踏まえた内容であること

論述が系統的かつ順序性をもって展開していること

看護の現状や社会の状況に馴染み、共感できること

根拠があり説得力があること

看護研究を進める基礎的文章力をもっていること

これらの評価基準で採点する。